

テーマ

「良い経営者とは」について

社員の人間性(心を高め、澄んだ心にして行く)を成長させる指導力と、
事業の「着実性と収益性と持続性と発展性」を積み重ねて行ける能力がある
社長が、良い経営者の前提である。

つまり、

「教養と判断」の中心であり、業績を上げ続けることの出来る社長であること。
経営理念を、社員一人一人に浸透させて行く哲学と人間性と説得力を持ち、
そのことが業績にもプラスに働いている会社を経営している社長のこと。

また良い経営者とは、社員から見ても尊敬でき、親しみを感じられる人間でないと、
良い経営者とは言えないと思う。

だから、経営者はまず、人生の生きる意義目的を明らかにすること。

これが、全ての始まりである。

これを明らかにして行く、内観して行く取り組みが、経営指針書作りであり、
経営指針書を創って行く過程に於いて、徐々に人生の生きる意義目的が明らか
になって行きます。

自分の人生の理想像を客観的に想像した時、自分自身はもちろんのこと、女房、子供や、社員や、友達から見て、恥ずかしくないのか！を自問自答してみることが大切。

大きい会社でなくても、強い会社でなくても、優秀な会社でもなくてもいい。しかし、お客さんや社員や社員の家族から、愛されている会社であり続けたい。愛され続けている会社は、幸福度が高く、会社の寿命まで充実出来ると思います。

また業種業態によって「適正」というのが存在すると思う。

社員の能力向上で会社の規模が大きくなることを以って、成長とは言わない。それは、膨張会社になってしまう恐れがある。

やはり、社員の間人としてのクオリティー(品質)の向上と、一人当たりの粗利益額の向上が大切。

人間としてのクオリティー、つまり人間性の品質を上げる努力をしながら、一人当たりの粗利益額向上を成し得ている会社が成長会社だと思います。

中小企業家同友会の経営者は、真の「成長会社」を探究しようと行動している仲間たちの集団でもあります。